

# 消防学校

## ニュース

### キーワードは…「女性」…特別号

平成31年1月31日発行

成長戦略の重要な柱として「女性の活躍推進」に国を挙げて積極的に取り組んでいる中、“社会の安全・安心を確保する女性人材の育成拡大”が求められる『消防』の分野においては、「消防本部における女性職員の更なる活躍に向けた取組の推進について」(平成27年7月29日付け消防庁次長通知)が発出され、平成38年度当初までに全国の女性消防吏員の割合を5%まで引き上げることを共通目標としました。それを受けて、各消防本部では、実情に応じた数値目標の設定による計画的な女性消防吏員の採用をはじめ、女性消防吏員の研修機会の拡大、女性専用設備の整備など、様々な取組が進められています。

## 女性消防吏員講習(第1回)の開催



平成30年度新規事業①【消防職員特別教育】

県消防学校では、平成28年度末、今後概ね5年間に目指す教育訓練の方向性を「教育訓練指針」(中期教育ビジョン)として策定し、その一つに「女性消防職団員の活躍推進を図る教育の充実」を掲げました。

その具体化として、本年度、女性消防職団員を対象とした特別教育を新たに実施することとしました。ここではまず、女性消防職員を対象とした『女性消防吏員講習』の様子を御紹介します。



12人の入校式

この講習は、女性消防吏員の意欲や能力に応じた職域拡大やキャリア形成を支援するため、警防、救助活動等における技術及び知識を習得するとともに、女性消防吏員の活躍推進について理解を深め、また意見交換の場を通じて職員間のネットワーク構築を図ることを目的として、11月1日(木)、2日(金)の一泊二日(教育時間数14時間)で実施しました。

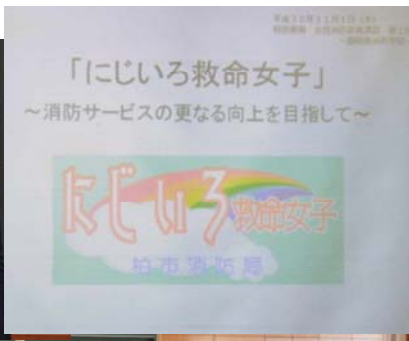
記念すべき第1回は、県内の10消防本部から意欲溢れる“静岡県の消防女子”12人が入校しました。

### ☆ どのようなカリキュラムにするか…

消防大学校や他県の取組に係る情報を収集し、学校長を交えて幾度となく協議を重ねた結果、教育時間14時間中、6時間を警防や救助活動に関わる実科訓練、8時間を「女性活躍推進」や「人事業務管理・健康管理」といった座学とし、バランスに配慮したカリキュラムを編成しました。



校長講話: 消防の現状や課題を理解、認識



「女性職員活躍推進」(第1日:2時間)は、先進的な活動事例を学ぶため、女性職員で編成される『にじいろ救命女子』で活動する千葉県柏市消防局救急科主査の高澤夏子さんを講師としてお招きしました。前半は『にじいろ救命女子』の発足の経緯や活動内容等を紹介いただき、後半は各入校生が考える“将来像・キャリアプラン”や“感じている不安”等を提起し合い、女性が働きやすい職場環境づくりや今後の活躍に繋がるヒントを探りました。

「人事業務管理・健康管理」(第2日:3時間、管理監督的立場の職員等聴講可)では、一般財団法人日本防火・防災協会の會田幸子さんに講師をお願いし、『ハラスメント』や『女性活躍推進』が叫ばれている中で意識しなければならないことなどをお話いただきました。また、女性消防吏員の活躍推進には階級や性別を問わず、すべての職員が関わっていくことが重要との御指摘もいただきました。

「事例研究」(第2日:1時間)では、各入校生が入校前にまとめた「所属の現状と課題」や「女性活躍推進に係る取組事例」の発表を行いました。課題に対する解決方法等については、とてもホットな討議が繰り広げられました。



**実科訓練**



「現場指揮Ⅰ」(第1日:3時間)は、前半で各種注水要領を学び、後半では完全防火着装により実火災体験型訓練を実施しました。「現場指揮Ⅱ」(第2日:3時間)は、前半では水平かかえ救助と屋内進入注水要領を実施し、後半は1隊6人の小隊を編成して、防火造の一般住宅火災を想定した消火活動訓練を行いました。

# ホットトレーニング

中性帯やロールオーバーを確認!



高温環境下でのストレスや注水による熱環境の変化を体感!



「火災性状」や「注水技術」を理解・認識!

終わったア...かな

部隊指揮の留意点、建築構造・煙・熱・炎など重要な指標に基づく活動判断の重要性を認識!



訓練終了後  
フィードバック実施...

フィードバック



注!! ドアコントロール



人命救助最優先!!



疲れたア...かな

# おわりに



担当教官  
佐野 将則 主査

2日間の講習が終了し、  
総代の早崎消防司令補(志太)と  
副総代の齋藤消防士長(静岡)があいさつ。  
最後に皆で記念写真!



2日間という短い期間ではありましたが、実科訓練において警防活動等の最新の知識、技術を学ぶことで「職域の幅」を体感できたのではないのでしょうか。また、少人数の宿泊研修により活発なコミュニケーションが図られ、女性職員間のネットワークも構築できたかと思えます。



今回の講習を契機に、それぞれの特性・能力を更に発揮し、意欲と適性に応じたキャリアを積んでいかれること、そして今回の成果を各所属でフィードバックし、また築いたネットワークを活用して「女性消防吏員の活躍推進」の担い手として活躍されることを大いに期待します。



## 【アンケートによる意見・感想を御紹介】

- 「あと1~2日欲しかった」「一泊二日は短い」「事例研究の時間を増やしてほしい」など、講習期間や時間の延長を望む声が多かったです。
  - 男性職員向けのコースや男性職員の参加・受講を望む声も複数ありました。
  - 「全ての科目が刺激的で、今後の活力になり、今後の消防人生の励みになった。」
  - 「県内の女性職員の横のつながりができた。悩み等の解決に少し前に進むことができた。」
  - 「ずっと自分の所属の狭い世界にいたけど、他の本部の女性と話したら、もっと周りの世界は広いと思った。」
  - 「実科訓練により、自分たちにできること、できないことが理解できた。」
- … アンケート結果も参考にしながら、今後の教育訓練の内容等を工夫、充実させていきたいと考えます。



## ワンチョット(ちょいネタ)コーナー

### One Chot

台湾からの客人たちが見た  
“薩埵峠からの富士山”



歌川広重の浮世絵  
「東海道五拾三次 由井 薩埵嶺」  
と比べていかがかな…



10月末から11月初めに掛けて来校した台湾の新北市・内政部消防署視察団が「女性消防吏員講習」を熱心に視察。台湾でも『女性の活躍推進』は大きな課題だそうです。



# 女性消防団員研修会 (第1回) の開催

次は、平成 30 年 10 月 21 日（日）に開催しました「女性消防団員研修会（第 1 回）」です。

この研修会は、“女性活躍推進”という大きな流れの中で、「女性消防吏員講習」とともに、女性消防職団員を対象に、消防学校が本年度新たな取組として実施したものです。

研修会では、実科訓練を通して、炎や水そのもの、或いは最新の資機材であるドローン等を体感し、消防団員の心構えと災害時の必要な知識・技術を習得して、住民への防災指導等今後の消防団活動に役立ててもらうことをねらいとしています。

当日は、県内の消防団から 43 名の女性消防団員が入校しました。また、静岡県女性消防団員連絡協議会の井上 靖子 会長（熱海）、河合 あき子 副会長（湖西）及び澤野 美代 副会長（静岡）が特別参加し、訓練の様子を終日見守っていただきました。

9:00～9:30	9:30～9:40	9:40～11:30	11:30～12:30	12:30～15:20
受付	オリエンテーション	災害活動訓練 (熱風・熱気体験)	昼食・休憩	災害活動訓練 (屋内消火栓設備・各種放水) 防災 (ドローンの概要・取扱い)



**◆熱風・熱気体験**  
コンテナ内でパレットを燃焼させ、火災の輻射熱、放水により発生する水蒸気の熱さを体験することで火災の基礎知識を習得する。



**◆屋内消火栓設備取扱要領**  
屋内消火栓の基礎知識及び使用方法を修得し、災害時に使用できるようにするとともに、住民等に対して指導ができるようにする。



**◆各種注水要領**  
40、50、65 ミリホースで放水を実施することにより、その違いを体感するとともに、常備消防の現状を理解する。

**◆小型無人航空機(ドローン)**  
ドローンの操作訓練等を通じて、基本的な操作要領を修得するとともに、ドローンの性能等を理解する。



入校者、会長・副会長合わせて46人にアンケート調査を実施。訓練項目ごとに「◎大変参考になった」「○参考になった」「×参考にならなかった」を記入してもらったほか、感想、意見等を寄せてもらいました。



#### ◆熱気・熱風体験（◎45人）

- 火災現場に出動することはないが、いずれ出動することになると言われており、きちんとした知識がないと危険だということを実感した。
- 火災現場でむやみに放水するだけでなく、戦術があることを知った。
- 火災現場に出たことがないため、火災がどんなものか知らなかったが、消火方法や煙の流れを理解することができた。
- 服が濡れていると熱伝導率が上がることを知った。自分自身を守るために重要であることを学んだ。
- 実際に火を体感することによって、今後の火災予防の活動に当たり、今までとは違う言葉で説明できそう。



#### ◆屋内消火栓設備取扱要領（◎41人）

- 初めて使用したが、使用方法が意外に簡単であった。
- 取扱方法を知ることによって災害時に速やかに対応することができ、被害の拡大を防ぐことにつながると強く感じた。
- 身近にありながら使用方法を知らなかったが、体験したことで自信が持てた。



#### ◆小型無人航空機（ドローン） （◎45人）

- 初めてドローンを取り扱って難しかった。
- 一度は体験してみたかったドローンを操作できて幸せだった。
- 女性でも扱うことができることがわかり、今後の活動のヒントになった。
- 2回目以降の研修会でも取り入れてもらいたい。



#### ◆各種注水要領（◎43人）

- 入団したばかりで、ホースを持つのも初めてだった。
- 所属では、火災予防の啓発活動だけなので、男性団員や消防士の仕事を知ることができ、勉強になった。
- ホースの口径による反動力の違いがわかった。
- 入団してまだ年数も浅く知識がなかったので、実際の火災現場での活動を認識できた。
- 65ミリホースが重いものだというを知った。

## 【研修会全般の感想等】

- “また来たい”と思える研修会だった。
- 現場に出動しない私達だからこそ知っておく内容でもあることを実感した。
- 所属に持ち帰り、みんなに広めていきたい。
- 実際に消防吏員の方からお話を伺えて、とても有意義だった。
- 教官の説明がわかり易く、親切で楽しかった。
- 研修で学んだことを市民に伝えていきたい。
- 現場活動は危険と隣り合わせのため、指揮系統をしっかりすることが大切であり、常備と連携をとっていくことが重要であることを学んだ。
- 今日1日の研修で消防がますます好きになり、興味がわいた。
- 次年度以降も多くの方に受講してもらいたい。
- 自分にとってあこがれの消防学校に入校できて良かった。この日を楽しみにしていた。
- 普段はなかなか会えない他の所属の皆さんと会えて本当にうれしかった。
- 今回ものすごく勉強になり、もっともっといろいろな知識を身に付けたいので、研修会の機会が増えたらいいと思う。



## 【要望等】

- 講義（座学）があっても良かった。
- 規律訓練をぜひやりたい。
- 煙体験（建物内）もやれたらいい。
- 救急時、災害時の役立ちグッズ、代用品（身近な物の使い方）、水没した車からの脱出方法等を教えてもらえるとうれしい。
- 救命・救護に関する講習を入れてほしい。
- 参加者同士の意見交換ができる時間があるといい。
- 注水時のポンプ車のエンジンのかけ方、ポンプ車の機関について教えてほしかった。（実際にポンプ車を運転してみたかった。）
- 全団員が知識を得られるように、出前講座の実施や冊子（資料）の配布があればよい。

## 【その他】

- お昼ごはんがおいしかった。（今度はカレーを食べたい。）
- 名簿に女性の年齢一失礼！ 何か必要？
- 消防学校への案内板が小さくて分かりづらかった。
- ゴキブリの死骸があったので気になった。

研修会参加者の声によれば、今回の研修会は全体的に好評でした。このアンケート結果を踏まえ、静岡県女性消防団員連絡協議会の役員の皆様とも協議して、今後の実施内容の充実を図ってまいります。

なお、この研修会の開催状況については、平成30年11月30日（金）、（公財）静岡県消防協会の本年度第5回理事会において消防学校長より報告をし、併せて、消防学校で参加者の多岐にわたる要望等全てに応えることは困難なため、各消防団においても配慮願いたい旨を依頼しました。

## ワンチョット(チョイネタ)コーナー



平成30年11月17日(土)、静岡県消防協会・静岡県消防長会主催の本年度『静岡県消防大会』と『消防職団員意見発表会』が静岡市清水区の「清水テルサ」で開催されました。

大会と発表会の間で、県内初となる消防団員のみで構成される「静岡市消防団カラーガード隊」の演技が披露されました。



静岡市消防団カラーガード隊 Shizuoka Red Vigor United



知事、副知事、教育長、県幹部職員の方々に

# 消防学校から報告!

毎月県庁で定期的開催される「定例幹部職員会議」では、各部局からの報告、取組紹介が行われています。平成31年1月28日(月)の会議では、部局長報告事項として、消防学校長が報告を行いましたので、その内容を御紹介します。

注) 説明文中、( )内は時間の関係でやむなくカットした部分です。

おはようございます。消防学校長の澤野です。  
(本日は、めったにない)消防学校からの報告事項、題しまして、「消防学校の新たな取組、キーワードは…『女性』」であります。

## 1 教育ビジョンの具体化、アクション!

静岡県消防学校は、消防組織法に基づき、昭和28年4月に消防職員及び消防団員のための訓練施設として設置されてから65年、災害や事故の教訓、社会構造の変化などを踏まえ、不断の見直しを行いながら教育訓練を実施してきた。

平成28年度、翌年度から概ね5年間で目指す教育訓練の方向性として、『教育訓練指針』(中期教育ビジョン)を策定し、その具体化に取り組み、本年度から新たに6事業を実施した。

【消防を取り巻く環境(課題)】 → 【対応】 → 【平成30年度新規事業】

- ① 災害の多様化・複雑化・大規模化
- ② 救急需要の増加及び救急業務の高度化
- ③ 団塊世代の大量退職等に伴う専門的知識・経験を有する消防職員の減少
- ④ 消防団員数及び出動回数の減少
- ⑤ 消防分野における女性の活躍推進

災害対応能力等の向上を図る教育訓練の充実

- 消防職員
  - 初級幹部科
  - 実践的大規模災害対応講習
  - 指令センター員講習
- 消防団員
  - 初級幹部科
- 女性消防職員講習
- 女性消防団員研修会

女性消防職団員の活躍推進を図る教育訓練の充実

(静岡県消防学校は、自治体消防の根拠法である消防組織法に基づき設置されて65年、現在の清水区に移転して34年が経過いたしますが、その間、消防を取り巻く情勢の変化に応じた見直しを行いながら県内消防職員、消防団員の教育訓練を実施してまいりました。)

消防学校では、平成28年度、今後の教育訓練の方向性として、「中期教育ビジョン」を策定して、その具体化に取り組み、(大きく2点、災害対応能力等の向上と女性消防職団員の活躍推進を充実させる教育訓練として)本年度新たに6本の事業をスタートさせました。

本日は、そのうち、女性消防職団員の活躍推進を図る取組について御案内いたします。

## 2 消防分野における女性職団員の状況

消防庁は、平成27年の次長通知により、平成38年度当初までに**全国の女性消防吏員の割合を5%まで引き上げる**ことを共通目標とし、計画的な女性消防吏員の増員を要請

平成29年4月1日現在  
女性消防吏員の全体に占める割合  
全国 2.6% 本県 2.5%

平成25年から27年にかけて三度にわたり、総務大臣から全ての都道府県知事、及び市区町村長あて書簡を送付し、**女性の消防団加入促進に向けた積極的な取組**を依頼

平成30年4月1日現在  
女性消防団員の全体に占める割合  
全国 3.1% 本県 2.2%



さて、消防分野における消防職団員の状況であります。グラフにありますとおり、女性消防職員、女性消防団員、ともに全国の人数の増加傾向にあり、本県の場合も同様の状況です。

ただし、全体に占める割合は2%から3%、警察官、自衛官等と比較しますとまだまだ低い率にとどまっているのが実情であり、女性消防職団員の更なる増加への取組が全国的に進められているところです。

(重要なのは、今いる女性消防職団員がいかに充実して働くことができるか、消防分野で能力を発揮して活躍できるか、であり、それが職団員の増加につながっていくことは言うまでもありません。この視点により消防学校がどのようにサポートできるか、それを具体化したのが次に御紹介する消防学校での女性活躍推進に向けた取組です。)

消防学校における女性消防職団員の活躍推進の取組です。

まず、女性消防職員については、(各消防本部が女性の採用を計画的に進めていく中、今いる)女性職員の職域拡大、キャリア形成を支援するため、座学と実科訓練を織り交ぜた一泊二日の講習を実施しました。

## 3 消防学校における女性消防職団員の活躍推進

### (1) 「女性消防吏員講習」(第1回)の開催

平成30年11月1日(木)、2日(金)の一泊二日より、消防職員特別教育として新規に開催。意欲あふれる「静岡県の消防女子」12名が入校。

女性消防吏員の意欲や能力、適性に  
応じた職域拡大、キャリア形成を支援!



次に、女性消防団員については、  
 まずは火、そして水そのものを体感してもらい、  
 今後の消防団活動に役立ててもらえるよう  
 実科訓練による研修会を  
 (日曜日)に開催しました。

(どちらも共通に、女性同士の所属を越えた横のつながりの  
 形成をお手伝いできたこと、そして自分たちがどこまでやれる  
 のか、その職域の幅を体感してもらったことは大きな成果で  
 あったと考えています。)

**(2) 「女性消防団員研修会」(第1回)の開催**

平成30年10月21日(日)、まだホースを触ったこともない初心者から、  
 消防吏員を目指す熱き消防レディまで、県内消防団から43名の女性消防  
 団員が入校。静岡県女性消防団員連絡協議会の会長、副会長が特別参加。

消防団員としての心構えを養い、災害時に必要な知識・技  
 術を習得させ、今後の消防団  
 活動を支援!

火災の輻射熱、放水により発生  
 する水蒸気の熱さを体験する

小型無人航空機(ドローン)の  
 基本的な操作要領を習得する

40、50、65ミリホース  
 で放水を実施し、その  
 違いを体感する

**(3) 消防学校教官としての活躍推進**

女性消防職団員対象の教育訓練スタート

女性初任科入校生(新規採用)の増加

消防学校教官ポストも消防職員の活躍の場

女性教官の必要性の高まり  
 県内消防本部からの女性職員派遣の受入れ

来年度、初の女性教官が誕生

ただいま施設の一部改修など、  
 女性教官の受入れ準備中。  
 女性目線での教育訓練に期待!

年度	人数
27年度	7
28年度	7
29年度	9
30年度	11

このような女性職団員を支援する教育訓練がスタートし、  
 女性職団員数が増加していく中、

(消防学校にとって女性への対応が課題となってきますととも  
 に、学校教官ポスト自体が女性職員の活躍の場ということも考  
 え合わせますと、教官に女性も必要ではないかと悩んでいた  
 ようどその時、来年度から教官として派遣する職員を女性とし  
 たという消防本部からの申し出があり、)

これまで男性教官ばかりであった消防学校に、  
 いよいよ来年度、  
 初の女性教官が誕生することとなりました。  
 学校教官としての女性の活躍が始まるわけでありです。

**(4) 「台湾消防」との交流事業も本格実施**

台湾においても「女性の活躍推進」は大きな課題  
 の一つとなっている。  
 現在進めている台湾内政部消防署訓練センター  
 (日本でいう消防大学校)を中心とした台湾消防と  
 の交流の中で、女性教官を含めた教官同士の意  
 見・情報交換等を積極的に行い、様々な課題の  
 解決や相互の発展につなげていきたい。

本年2月終わりから3月初めに台湾訓練センターの李センター長が女性教官を  
 含めた教官たちを伴い来校。3月中旬には逆に本校教官3名を台湾訓練セン  
 ターに派遣し、教官同士の技術交流を進める予定。

平成30年10月末から  
 11月初めにかけて、  
 台湾新北市・内政部  
 消防署視察団が来校。  
 「女性消防吏員講習」  
 を視察。

また一方で、  
 本校では現在「台湾消防」との交流が本格化しつつあります。  
 女性を含めた教官同士の交流を積極的に行い、  
 相互のレベルアップを図っていく中で、  
 台湾でも大きな課題であると聞いております  
 「女性の活躍推進」をはじめ、  
 様々な課題解決も図っていききたいと考えています。

1時間は十分に話ができそうなパワポのスライドを  
 準備したものの、報告時間1人2分厳守というのは  
 なかなか辛いですね。

(「消防は男性の職場」という固定的なイメージから  
 「女性がいて当たり前職場」へ、)

消防職団員は、性別にとらわれることなく、一人ひとりが多様化する  
 消防の役割・任務を的確に対応し、住民サービスの更なる向上  
 と消防組織の強化、活性化を目指していかなければなりません。

わが消防学校は、小さな組織ながらも県内消防の強力なサポ  
 ート役として、新たな課題にも果敢にチャレンジし、本県の消防防  
 災体制の発展に寄与してまいりたいと考えます。報告は以上です。

川勝知事から次のコメントがありました。

「キーワードは女性」はそのとおりである。男女それぞれ、体  
 力等は違うけれど、消防団員として果たすべき役割がある。  
 “消防は男の仕事”という固定観念は打破すべき。女性の比  
 率は、自衛隊が6~7%という状況を踏まえ、「1割」を目指し  
 たい。ぜひ女性への働き掛けを一段と強めていただきたい。」

**4 おわりに**

消防職団員一人ひとりが性別にとらわれること  
 なく、「国民の生命、身体及び財産を守る」という  
 崇高な使命・任務のため、個々の有する特性・能  
 力を十分に発揮し、意欲と適性に応じたキャリアを  
 積むことによって、消防防災体制の更なる発展を  
 目指していかなければなりません。  
 消防学校は全力でサポートしていきます。

時代の変化、時代の要請に応じて  
 新たな課題、新たな取組にチャレンジ!

今回入校した女性消防職団員一人ひとりが消防分野  
 における「女性の活躍推進」の  
 担い手として活躍してくれる  
 ことを楽しみにしています。

# 民間防火組織指導者

# 消防学校体験入校



平成30年11月30日 (金)



静岡県女性防火クラブ  
連絡協議会  
鈴木 政子 会長



平成30年4月の栄えある  
旭日双光章受章を心から  
お祝い申し上げますとともに、  
鈴木様の多大な御功績に  
対し心から敬意を表します。

平成30年11月30日(金)、「民間防火組織指導者消防学校体験入校」が消防学校にて行われました。

これは県内の幼年・少年消防クラブ、女性防火クラブ等の民間防火組織の指導者や防火協力団体役員等に、防火・防災等に関する正しい知識・技術を身につけてもらい、活動の活性化を図ることを目的に、静岡県女性防火クラブ連絡協議会(鈴木政子会長)が県から委託を受け毎年実施しているものです。平成3年からの実施で、今年で28回目という歴史があります。

消防学校教官が各訓練項目の担当教官を務め、訓練補助員として県内消防本部の消防職員が就いてくれました。参加者は約90人、そのうち8割が女性ということもあり、いつになく和やかな表情の教官たちでした。

## ロープ結索訓練



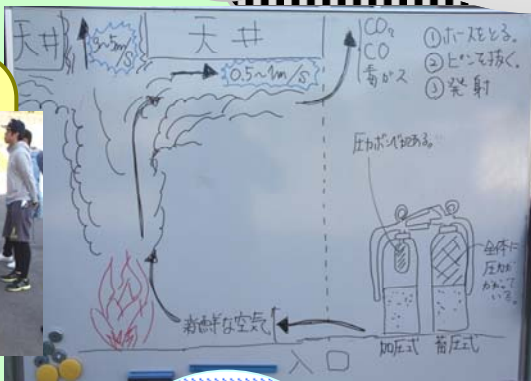
## 搬送訓練



## 煙体験



## 消火器取扱訓練



## 応急手当



## 屋内消火栓訓練



## 放水訓練



## アンケート結果では…

- ◎訓練はいかがでした？  
「非常に良かった」 73.8%  
「良かった」 26.2%  
合わせて100%！
- ◎特に勉強になったもの、今後役立ちそうなものは？  
(二つまで回答可)  
【回答率ベスト3】  
① 搬送法 26.7%  
② ロープ結索 20.5%  
③ 応急手当 19.3%



平成31年1月25日(金) 掛川市消防本部

平成30年度

# 中東遠地域女性職員(消防・警察)合同研修会

平成31年1月25日(金)、掛川市消防本部において、女性職員が働きやすい職場環境を整備するため、消防・警察の女性職員を対象とした合同研修会が開催されました。掛川市によれば、こうした取組は初めてだそうです。

スケールメリットを生かすため、周辺の消防本部や警察署にも参加を呼び掛けた結果、研修会当日は、中東遠地域の五つの消防本部から15人の女性消防士、警察本部と五つの警察署から10人の女性警察官が集まり、会場の後ろには人事管理担当職員らが着席しました。研修会の開催を聞きつけた消防学校長もその中の一人として見学しました。

当日の進行役は、今回の研修会を企画したという、掛川市消防本部総務課の戸塚陽世 消防副士長が務めました。開会に当たり、白畑喜久雄 掛川市消防長が挨拶をされました。  
「女性幹部職員を育てていくのは我々の責務」という言葉が非常に印象的でした。

## 第1部 講演

第1部では、掛川警察署の三原博美署長が「女性として働く魅力について」をテーマに講演を行いました。三原署長は、静岡県警では初めての女性署長です。



- 横のネットワークを広げて何でも話ができる仲間を増やす
- 経験値、期待値を上げる、それは自分の財産になる
- 「私はいいですから…」の自信過小問題から脱却し、何でもやって自信をつける
- 階級を上げること(昇進)を目指す、そうすればスピード感を持って、よりダイナミックに仕事ができるようになる、上に上がることにより何よりも見方、考え方が変わる

「女性の持ち味を生かし、働きやすい職場をつくるには―」三原署長の参加者へのメッセージ

## 第2部 ワークショップ

(テーマ)  
これからの職場環境づくりとは



- ① 目指している女性吏員・警察官像
  - ② 働く環境・組織について
  - ③ 施設等について
  - ④ 貸与品等について
- の4テーマをグループごとに設定し、女性職員同士が自由に意見交換等を行った。ただし、その間は男子禁制令により、男性退室。グループ意見発表時に再入場となった。



この研修会は初めて実施されたものであり、細部について今後見直しも必要ですが、女性職員の企画、中東遠地域内の本部の連携、更に警察との連携、マスコミ報道による対外的な情報発信など、全体的には非常に良い研修会を見学することができたと感じています。アンケート結果でも参加者からは好評だったようです。

各消防本部は、女性職員の採用、女性職員のキャリア形成など、活躍推進の面でいろいろと考え、試行錯誤を繰り返しながらも取組を進めています。あくまでも主役は消防本部です。そのサポート役として、消防学校が何をどうすべきか、それを教育訓練としてどう具体化していくのか、来年度以降の大きな課題になりそうです。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: [fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp)

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

